

二〇一九年二月二七日

童女となる姉の笑顔やちゃんちゃんこ

やよい

倒木の逆立つダム湖山眠る

せいじ

二〇一九年二月二六日

終弘法引導の鐘絶ゆるなし

はく子

倒木は倒木のまま山眠る

せいじ

二〇一九年二月二五日

地下街の迷路に疲れ年の暮

たか子

湯けむりの匂ふ湯の街冬うらら

やよい

二〇一九年二月二四日

病院の母訪ひ父訪ふ年の暮

うつぎ

フレスコ画仰ぐ聖夜の礼拝堂

素 秀

笑み交はし譲るポストや年賀状

よう子

引導の鐘の余韻に年惜しむ

菜 々

二〇一九年二月二三日

年の瀬や行く先々に用事あり

明日香

年詰まる立つも座るも声を出し

三 刀

採石の瑕白しろと山眠る

そうけい

時なしの鐘の余韻に年惜しむ

菜 々

白囲む男衆餅の湯気の中

素 秀

二〇一九年二月二二日

恙無し小ぶりの柚子の仕舞風呂

よう子

温泉の湯気の硝子に冬落暉

たかを

待ち人の裏木戸に踏む霜柱

そうけい

無住寺のブルーシートや冬ざるる

こすもす

柔ら日に米粒ほどの梶冬芽

菜 々

二〇一九年二月二二日

それぞれに柚子の土産や句会果つ

こすもす

退院や夫の家事力身にぞ入む

明日香

遠山の頂に見る雪便り

素 秀

夫と歩を合はせ小春の切通し

やよい

師走妻弘法さんへ逃避行

菜 々

毎日句会みのる選・二〇一九年二月二九日